

ウィークリー・アウトルック

高市自民党総裁の政策は？

【今週のポイント】

- ・高市トレードは持続するか
- ・米シャットダウンで先行き不透明感高まる
- ・NZ 中銀の利下げ幅はどうか

4 日の自民党総裁選では高市早苗氏がサプライズで勝利しました。市場では、積極的な財政出動や日銀の利上げに対するけん制などの思惑が高まりそうです。ただし、党内人事や(国会での首班指名を前提として)組閣、どの政党と連立・連携するか、そしてどのような政策を打ち出すかなど、不透明要因は多くあります。

6 日の東京市場は、日経平均急騰、長期金利(10 年物国債利回り)上昇、為替「円安」で始まりました。そうした反応が続くかどうかは、具体的な政策がどの程度明らかになるか次第かもしれません。

米国では、10 月 1 日からシャットダウン(政府機能の一部停止)が始まりました。共和党(トランプ大統領)と民主党の対立が激化しており、いつ本予算か継続(つなぎ)予算が成立してシャットダウンが解消されるかは予断を許しません。シャットダウンが解消されるまで、政府による経済指標の発表が遅延することになるため、市場では材料に乏しい状況が続くかもしれません。

今週の注目は、日本の政治動向を除けば、RBNZ の政策会合と FOMC 議事録の公表です。

9 月 16-17 日開催の FOMC は今年初の利下げを決定。直前に就任したばかりのミラン理事が 0.50% の利下げを主張しました。ミラン理事はその後の講演で大幅利下げを主張する根拠を説明しました。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
10月8日	10:00	【NZ】RBNZ政策金利	2.75%	2.75%	3.00%
	15:00	【スウェーデン】CPI速報値 前年比(9月)	1.1%	1.0%	1.1%
		【スウェーデン】CPIF速報値 前年比(9月)	3.2%	3.2%	3.2%
	27:00	【米】FOMC議事録(9月16-17日開催分)			
10月9日	21:00	【メキシコ】CPI 前年比(9月)	3.80%	3.78%	3.57%
10月10日	15:00	【ノルウェー】CPI 前年比(9月)	3.5%	3.5%	3.5%
		【ノルウェー】CPI-ATE 前年比(9月)	3.1%	3.1%	3.1%
	21:30	【カナダ】雇用者数 前月比(9月)	0.50万人	0.50万人	-6.55万人
		【カナダ】失業率(9月)	7.2%	7.2%	7.1%
	23:00	【米】ミシガン大学消費者信頼感指数・速報値(10月)	55.0	54.0	55.1

市場予想はBloomberg、10月6日9:00現在。発表日時は日本時間。

ミラン理事は当該 FOMC でも同様の説明をしたとみられますが、参加者からどんな反応があったか、ある程度判明するかもしれません。景気、とりわけ雇用情勢や、物価動向に関する FOMC での議論も興味深いかもしれません。＜西田＞

自民党総裁選では、高市前経済安保相が勝利して新たな総裁に選出されました。市場では高市新総裁は“積極的な財政”や“緩和的な金融政策”を志向しているとみられており、豪ドル/円やメキシコペソ/円などの対円の通貨ペアは引き続き堅調に推移する可能性があります。

RBNZ (NZ 中銀) の政策会合が 8 日に開かれます。市場では利下げ幅について見方が分かれているため、RBNZ の政策決定に豪ドル/NZドルや NZドル/米ドルが反応しそうです。

10 日にはカナダの 9 月雇用統計が発表されます。雇用統計の結果を受けて BOC (カナダ中銀) の先行きの金融政策に対する市場の見方が変化するかに注目です。

メキシコの 9 月 CPI (消費者物価指数) が 9 日に発表されます。BOM (メキシコ中銀) は 9 月 25 日の会合で 0.25% 利下げすることを決定し、声明では「政策金利のさらなる調整を検討する」と改めて表明。市場では、次回 11 月 6 日の会合で 0.25% の追加利下げが行われるとの観測があります。9 月の CPI が市場予想を上回る結果になれば、追加利下げ観測が市場で後退するとともにメキシコペソにとってのプラス材料になりそうです。＜八代＞

今週の注目通貨ペア①: ＜米ドル/円 予想レンジ: 146.500 円～151.500 円＞

米シャットダウン (政府機能の一時停止) の影響で雇用統計などの経済指標の発表が延期されていますが、予算成立とともにそれらが発表されるとみられるため、注意が必要でしょう。

シャットダウンが継続するならば、今週は FOMC 議事録を除けば、材料不足の感は否めません。ただ、シャットダウンそのものが長期化観測などから市場で嫌気される可能性はありそうです。

FOMC 議事録では、景気や雇用に対する懸念、あるいはミラン理事の大幅利下げの主張に対する共感などが示されれば、米ドル安の材料になるかもしれません。

日本サイドでは引き続き政治情勢が相場材料になりそうです。高市自民党総裁が公約通りの動きをみせれば、円に下落圧力が加わりそうです。ただ、党内の圧力などから高市総裁が制約を受けるとみられれば、株高・金利高・円安の初期反応は反転する可能性もありそうです。＜西田＞

今週の注目通貨ペア②: ＜ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ

予想レンジ: 0.93000S クローナ～0.96000S クローナ＞

リクスバンク (スウェーデン中銀) は 9 月 23 日の会合で据え置き予想に反して 0.25% の利下げを実施しました。声明では「物価と経済活動の見通しに変化がなければ、政策金利は当面この水準で推移すると

予想される」とし、当面の政策金利据え置きを示唆しました。8日の9月CPIF(エネルギーを除く)が2.8%との市場予想通りなら、据え置き観測が強化されるかもしれません。そうであれば、ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ(NOK/SEK)にとってマイナス材料となりそうです。

他方、ノルゲバンク(ノルウェー中銀)は、9月18日の政策会合で利下げを実施し、政策金利を4.00%としました。リクスバンクと異なり、ノルゲバンクの利下げ余地は大きいかもしれません。10日のCPI基礎が3.5%との市場予想通りであれば、利下げ観測は後退しそうです。ただ、いずれ利下げを行うとの方向性に大きな変化がなければ、NOK/SEKの上昇余地は小さいかもしれません。

OPECプラスは石油の増産を決めたものの、小幅な増産だったために原油価格は週明けにやや反発しています。ただ、原油相場は軟調が続く可能性があり、そうであればNOK/SEKの重石になるかもしれません。＜西田＞

今週の注目通貨ペア③: <豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.11000NZドル~1.15000NZドル>

豪ドル/NZドルは9月30日に一時1.14132NZドルへと上昇し、22年10月以来およそ3年ぶりの高値をつけました。市場では、RBA(豪中銀)の追加利下げ観測が後退する一方で、RBNZ(NZ中銀)の積極的な利下げ観測が高まっており、それが足もとの豪ドル/NZドルの上昇要因と考えられます。

RBNZの政策会合が8日に開かれます。市場は利下げが行われることをほぼ確実視しています。会合における最大の焦点は、どの程度の利下げが行われるのか。利下げ幅について市場の見方は分かれており、OIS(翌日物金利スワップ)によると、3日時点で市場が織り込む利下げ幅の確率は、0.25%が約6割、0.50%が約4割です。仮に利下げ幅が0.25%ならば、NZドルが堅調に推移して豪ドル/NZドルには下落圧力が加わると考えられます。

RBNZの声明や会合の議事要旨にも目を向ける必要がありそう。それらでは、11月会合以降の金融政策についてどのようなヒントが示されるかに注目です。＜八代＞

今週の注目通貨ペア④: <米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.38000カナダドル~1.40500カナダドル>

10日にカナダの9月雇用統計が発表されます。雇用情勢はBOC(カナダ中銀)の金融政策判断に影響を与えられられるため、カナダの雇用統計の結果に米ドル/カナダドルが反応しそうです。

BOCは9月17日の政策会合で0.25%利下げすることを決定。政策金利を2.75%から2.50%へと引き下げました。BOCは利下げする理由を「(カナダ)経済が減速し、インフレの上振れリスクが低下していることから、今後のリスクをより均衡させるため」と説明。マックレム総裁は会合後の会見で「リスクが一段と傾く場合、さらに行動する用意がある」と述べ、追加利下げに含みを持たせました。

市場では、BOCは次回10月29日の会合で0.25%の追加利下げを行うとの見方が大勢。OIS(翌日物金利スワップ)によると、3日時点で市場が織り込む10月の利下げ確率は約6割です。カナダの雇用統計が市場予想と比べて強い結果になれば、BOCによる追加利下げ観測が後退するとともにカナダドル

にとってのプラス材料になりそう。その場合、米ドル/カナダドルは軟調に推移すると考えられます。

米国のシャットダウン(政府機能の一部停止)のゆくえにも注目です。シャットダウンが続く場合、米ドル/カナダドルの上値を抑える要因(米ドルにとってのマイナス材料)になりそうです。＜八代＞

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘（にしだ あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也（やしろ かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
